

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-006

PDCA	事務事業名	最終処分場汚水処理施設補修事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター 管理担当	担当	中村	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第2節 環境との共生					
		基本施策： 2. 廃棄物対策					
		単位施策： (2) 廃棄物の処理					
	根拠法令等	個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	対象・目的	処分場から浸出する汚水を適切に処理し、環境汚染の防止に努める。					
	目的を達成するための手段・活動内容	各種機器の補修及び施設の維持管理等を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①最終処分場汚水処理量(放流水)	47,938	48,072	43,238	m3	
		②					
		③					
		事業費	14,040	6,727	5,412	千円	
		人件費	937	932	926	千円	
		総事業費	14,977	7,659	6,338	千円	
	活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
	①放流水処理1m ³ 当たりの補修費	0.31	0.16	0.15	千円		
	②						
	③						
	成果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①放流水の水質基準値達成率	実績値	100	100	100	%
目標値			100	100	100		
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	—	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	B					
		汚水処理施設の補修整備を実施し、最終処分場からの浸出水を廃棄物処理法の管理基準値以下で河川に放流することができた。今後も適正に施設の維持管理を行い、環境汚染の防止に努める。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持				
			経年使用による劣化、摩耗損傷している各種設備機器類を日常点検等で把握し、補修計画に基づいた補修を行うことで、浸出水を廃棄物処理法の管理基準値以下で放流する。				
		令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位
			放流水の水質基準値達成率			100	%